

様々な角度から、厚生労働行政に携わる



あきば みきこ
秋場 美紀子

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター研究部門 主任研究員

現在の業務内容について教えてください。

令和4年4月から高齢・障害・求職者雇用支援機構(JEED)障害者職業総合センター研究部門に配属になり、障害者雇用関連の研究業務に携わっています。

研究部門では、各研究員がそれぞれ複数の研究を担当しています。当機構プロパーの研究員以外に、障害者職業カウンセラーや厚生労働行政からの出向者があり、異なるバックグラウンドの担当間でそれぞれの視点・経験を活かしながら協力して研究を進めています。

現在私は、「AI等の技術進展に伴う障害者の職域変化」及び「オンラインによる就労支援サービスの提供」の2テーマを担当しており、アンケート調査やヒアリング、研究会等を行い、報告書として取りまとめる予定です。IT等の技術進展やオンライン活用は、産業構造や雇用、働き方に大きな影響を及ぼすものであるため、施策立案や現場の支援に役立つ研究にしたいという想いを持って取り組んでいます。

現在の業務は、厚生労働行政とどのような関わりを持っていますか？現在のポストならではのやりがいは何でしょうか？併せて、休日の過ごし方についてご教示ください。

研究は、障害者雇用関連の施策立案のベースになるものと、企業の障害者雇用や地域の就労支援サービスの質の向上のためのものがあります。厚生労働本省からの要請研究もあり、関係部局とやり取りしながら進めています。

研究業務のやりがいは、試行錯誤の過程で良い案が閃いて活路が開ける瞬間です。これまで本省の障害者雇用対策課と、当機構の第一線機関である地域障害者職業センターでの勤務経験があり、行政と現場の両方の経験が研究業務に生かされていることを日々感じています。

休日は、専ら小1の娘と過ごしています。娘と同じフィギュアスケート教室に私も入会して一緒に通っています。毎月進級がかかるテストがあるので、頑張って練習しています。その他、一緒にお料理したり、スポーツ観戦をしたり、娘とともに自分も楽しんでいます。



くぼむら たつや
久保村 達也

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
国立吉備高原職業リハビリテーションセンター 所長

現在の業務内容について教えてください。

国立吉備高原職業リハビリテーションセンターは、厚生労働省の所管施設として、1987(昭和62)年に設置されました。

全国の就職を希望する障害者を対象に、障害特性や適性について理解を深め、職業についての知識や求職活動の方法を学びながら職業訓練に取り組むことができる施設です。

実践に即した訓練環境に加え、通所できない方でも安心して訓練受講に専念できるよう、寮、食堂等を備え、先導的な職業訓練を軸とした職業評価、職業指導を一体的に実施しています。また、指導技法を開発し他の訓練校へ普及することにも取り組んでいます。

訓練生、ご家族、そして支援者の方々の思いが実を結ぶよう、管理面、業務面の双方からその円滑な実施に目を配るほか、車いすロードレースの開催など地域社会において相応の責任を果たすための事業も含め、所長として全体の運営を総括しています。

現在の業務は、厚生労働行政とどのような関わりを持っていますか？現在のポストならではのやりがいは何でしょうか？併せて、休日の過ごし方についてご教示ください。

訓練生は当センターで約1年または2年をかけて技能の向上に取り組み、一人ひとり大きく成長し、就職が決まっていきます。修了式を迎えた訓練生の紅潮した頬には、自信と誇りが宿っているように感じます。それまで本人と一体となって取り組んできた指導員、カウンセラー、そして関係者全員がその巣立ちを心から祝福します。私にとってもやりがいと喜びに満ちあふれた一日です。

休日は、吉備高原の澄んだ空気の中をジョギングしたり、瀬戸内の観光スポットを巡ったりしています。何より一番の魅力は自然の豊かさです。先日は道でタヌキと出遭い、カメラを取り出した際に逃げられてしまいましたが、その時ふと空を見上げると満天の星が輝いていて、自然あふれる環境の中で暮らし、仕事ができる喜びをあらためて実感しました。



ひがしら ふみえ
東良 史絵 (※後列右)

WAPES(世界公共雇用サービス協会)
ジョイントプロジェクトコーディネーター

現在の業務内容について教えてください。現在の業務は、厚生労働行政とどのような関わりを持っていますか？現在のポストならではのやりがいは何でしょうか？

皆様こんにちは。現在、私はWAPESというベルギーのブリュッセルを拠点とする非営利団体に長期出張中です。日本では厚生労働省がハローワーク約500か所の運営等を行っていますが、WAPESは、世界約80か国の「ハローワーク」(国によって名前は様々ですが、以下便宜上このように記載します)を運営する組織が加盟し、国際協力や専門知識の共有などを行うための団体です。私はここで、アジア太平洋地域のハローワークの業務改善を行うプロジェクトを担当しています。

日本国内におけるハローワークは、仕事を探されている方や地元企業に寄りそうとも身近な組織だと思います。しかし国際関係業務においては、そうしたハローワークの理念や役割が国境を越えてもなお共有されることを認識する機会が多く、その存在価値の奥深さを実感しています。

休日の過ごし方についてご教示ください。

普段の休日は、オンラインで日本の家族と話したり、近所の公園でヨガに参加したり、社会人大学院のコースでメンタルヘルスについて学んだりしています。また、現在の同僚がほぼフランコフォン(フランス語話者)ということもあり、フランス語の勉強のため、子供向けの映画を見たりしています。

さらに、私は人間科学職としては珍しく欧州勤務3回目ですが、ブリュッセルは交通の便がよいので、以前勤務していたイタリア(ILO国際研修センター)や英国(雇用年金省)などの近隣国に遊びに行き、当時の同僚や友人たちと会ったりしています。「欧州に初めて来たときはシャイだったのに変わった」と言われていますが、積極的かつ主体的でないと生きていけない海外暮らしの機会は私を大きく成長させてくれました。今後も、このような内省の機会や、国を超えた人とのつながりという財産を大事に育てていきたいと思っています。



すずき よしひさ
鈴木 良尚

独立行政法人労働政策研究・研修機構
労働大学校 准教授

現在の業務内容について教えてください。

私が所属する労働大学校では、全国のハローワーク、労働基準監督署、労働局などの労働行政に携わる職員に対する基礎的・専門的な研修を行っています。

この中で、私は、主に、労働局、ハローワークで初めて障害者や若者の就労支援に従事する職員を対象とした研修の企画、厚生労働省や外部講師との調整を行うとともに、ときには教官として講義を行っています。

昨年度までは、新型コロナウイルス感染症の影響により、ほぼすべての研修をオンラインで実施していましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況も考慮しつつ、オンラインと集合を組み合わせた研修を実施しています。

現在の業務は、厚生労働行政とどのような関わりを持っていますか？現在のポストならではのやりがいは何でしょうか？併せて、休日の過ごし方についてご教示ください。

労働大学校で行う研修は、厚生労働省からの要請に基づいて実施しています。

全国の労働局でもそれぞれ独自の研修を行っていますが、労働大学校では、中央で行う研修だからこそ、著名な外部講師陣による最先端かつ専門的な研修を行うことができます。

こうした講師陣と交わりながら、本省や労働局の業務から一步引いた目で知見を深め、自分自身をバージョンアップできることは楽しいですね。加えて、全国の職員(研修生)と関わりながら、現場の悩み、課題などを直接共有できることは、今後の自らの業務推進に当たっての重要な糧になっています。

そして、研修生から「この研修を受講できてよかった」という声を頂けることが、何にも増して、やりがいとなっています。

休日は、コロナ禍のため、旅行や友人と食事するといったことも難しいため、家族で公園や買い物に行ったりして、のんびり過ごしています。また、子どもが遊んでくれない日は、一人で映画や美術館などに行き気分転換をしています。